

第149回 日商簿記検定試験 2級 一工業簿記一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第4問 直接原価計算

直接原価計算において最も注意すべき点は、「製造原価（＝仕掛品勘定・製造間接費勘定）」がすべて直接原価（変動費）のみで構成されるという点である。以下の解説では、その点に注意すること。

1. 仕掛品勘定（＝当期製品製造原価）の作成

仕 掛 品			
期首有高	585,000	製 品	6,165,000
直接材料費	3,945,000	期末有高	640,000
直接労務費	1,625,000		
製造間接費	650,000		
	<u>6,805,000</u>		<u>6,805,000</u>

※1 直接材料費：次のとおり、原料勘定を作成すれば消費額が判明する。

原 料			
期首有高	480,000	仕 掛 品	3,945,000
当期購入額	3,880,000	期末有高	415,000
	<u>4,360,000</u>		<u>4,360,000</u>

※2 直接労務費：次のとおり、直接工賃勘定を作成すれば消費額が判明する。

直接工賃金			
当期支払額	1,640,000	期首未払高	220,000
期末未払高	205,000	仕 掛 品	1,625,000
	<u>1,845,000</u>		<u>1,845,000</u>

※3 製造間接費：次のとおり、製造間接費勘定を作成すれば消費額（発生額）が判明する。

製造間接費			
間接工賃金	503,000	仕 掛 品	650,000 ⇒ 予定配賦額
電力料	187,000	原 価 差 異	40,000 ⇒ 変動売上原価へ 賦課
	<u>690,000</u>		<u>690,000</u>

(注1) 予定配賦額：1,625,000円(直接労務費)×40%=650,000円

(注2) 間接工賃金：次のとおり、間接工賃勘定を作成すれば消費額が判明する。

間接工賃金			
当期支払額	510,000	期首未払高	55,000
期末未払高	48,000	製造間接費	503,000
	<u>558,000</u>		<u>558,000</u>

2. 損益計算書の作成（主要な部分のみ）

(1) 変動売上原価の各項目

① 製品勘定をイメージすればよい。

		製 品			
⇒期首製品棚卸高	期 首 有 高	710,000	変動売上原価	6,250,000	⇒ 差 引
⇒当期製品製造原価	当 期 完 成 品	6,165,000	期 末 有 高	625,000	⇒期末製品棚卸高
⇒ 合 計		<u>6,875,000</u>		<u>6,875,000</u>	

② 原価差異調整後の変動売上原価

$$6,250,000 \text{ 円} + 40,000 \text{ 円 (原価差異 ; 不利差異)} = 6,290,000 \text{ 円}$$

※ 不利差異は実際原価を示すため、損益計算書上、売上原価に加算する。

(2) 固定費

① 製造固定費

製造原価のうち、固定費と判断されたものがこの項目に記載される。製造原価中の固定費は、経費発生高のうち、変動費とされた電力料を除く金額と、工場従業員給料のみである。

$$210,000 \text{ 円 (保険料)} + 264,000 \text{ 円 (減価償却費)} + 185,000 \text{ 円 (その他経費)} + 715,000 \text{ 円 (工場従業員給料)} = 1,374,000 \text{ 円}$$

※ 工場従業員給料は次のとおり求められる。

工場従業員給料			
当期支払額	720,000	期首未払高	85,000
期末未払高	80,000	製造固定費	715,000
	<u>800,000</u>		<u>800,000</u>

⇒直接、損益勘定へ

② 固定販売費・一般管理費

$$406,000 \text{ 円 (固定販売費)} + 475,000 \text{ 円 (一般管理費)} = 881,000 \text{ 円}$$

第5問 工程別総合原価計算

1. 第1工程に関する製造原価の算定 (※平均法)

第1工程仕掛品-原料費				第1工程仕掛品-加工費			
86,000円	月初仕掛品 400個	当月完成品 7,600個	1,748,000円	175,000円	月初仕掛品 200個	当月完成品 7,600個	3,420,000円
1,800,000円	当月投入量 8,000個 ⇒ 7,800個	正常仕損品 200個 月末仕掛品 600個	⇒度外視	3,380,000円	当月加工量 7,800個 ⇒ 7,700個	正常仕損品 200個 ※100個 月末仕掛品 300個	⇒度外視
<u>1,886,000円</u>		138,000円	<u>1,886,000円</u>	<u>3,555,000円</u>		135,000円	<u>3,555,000円</u>

※ 途中発生の場合、加工進捗度が不明のため、当校では便宜的に50%の進捗度として説明している(⇒ただし、負担関係は両者負担となる)。また、他の専門学校等のテキスト等では0%(始点発生と捉える)としている場合もあるが、いずれも便宜上の仮の数値であり、結局は度外視されるため、50%としても0%としても計算結果は一致する。

- ◇ 原料費・月末仕掛品原価 : 1,886,000円(借方合計) ÷ 8,200個(借方数量合計) × 600個(月末仕掛品数量) = 138,000円
完成品原価 : 1,886,000円(借方合計) - 138,000円(月末仕掛品原価) = 1,748,000円
- ◇ 加工費・月末仕掛品原価 : 3,555,000円(借方合計) ÷ 7,900個(借方数量合計) × 300個(月末仕掛品数量) = 135,000円
完成品原価 : 3,555,000円(借方合計) - 135,000円(月末仕掛品原価) = 3,420,000円

2. 第2工程に関する製造原価の算定 (※先入先出法)

第2工程仕掛品-前工程費				第2工程仕掛品-加工費			
416,400円	月初仕掛品 800個	当月完成品 7,200個	4,904,400円	241,600円	月初仕掛品 600個	当月完成品 7,200個	4,383,600円
5,168,000円	当月投入量 7,600個	正常仕損品 200個 月末仕掛品 1,000個	⇒度外視	4,608,000円	当月加工量 7,200個	正常仕損品 200個 月末仕掛品 400個	⇒度外視 評価額△210,000円
<u>5,584,400円</u>		680,000円	<u>5,584,400円</u>	<u>4,849,600円</u>		256,000円	<u>4,849,600円</u>

- ◇ 原料費・月末仕掛品原価 : 5,168,000円(当月投入原価) ÷ 7,600個(当月投入量) × 1,000個(月末仕掛品数量) = 680,000円
完成品原価 : 5,584,400円(借方合計) - 680,000円(月末仕掛品原価) = 4,904,400円
- ◇ 加工費・月末仕掛品原価 : 4,608,000円(当月投入原価) ÷ 7,200個(当月加工量) × 400個(月末仕掛品数量) = 256,000円
完成品原価 : 4,849,600円(借方合計) - 256,000円(月末仕掛品原価) - 210,000円(仕損品評価額) = 4,383,600円
- ◇ 第2工程完成品総合原価 : 4,904,400(前工程費分) + 4,383,600円(加工費分) = **9,288,000円**